

プラス1ピースの読書会

～あなたの読書体験に一片のいろどりを～

Vol. 11

『堀田善衛 乱世を生きる』



あまり顧みられない初期小説群における主人公のスタンスを、「スパイ」「転向」といった切り口で積極的に評価しているのが新鮮だ。

原稿・メモ類も丹念に調べた優れた試み。
～宮下志朗氏の書評（読売新聞書評欄より）～

乱世を生きた知の巨人を丁寧に再評価する試み

堀田善衛といえば、「戦後派作家」「芥川賞作家」「乱世の作家・思想家」というどちらかと言えば、硬派なイメージをもたれる方が多いかもしれません。しかし、堀田の文章は平明でユーモアがあり、親しみやすい作品が少なくありません。

堀田作品は、取り扱う範囲の幅広さも圧倒的です。フランス、ロシア、インド、中国、キリスト教、中世文学、ゴヤ、モンテーニュ、鴨長明、藤原定家、西行等々、まさに知の巨人といえるでしょう。意外なことに、これまで網羅的な研究がされていませんでした。

堀田作品を「史実と思想をミックスして読み物として再構成した作品」と評する水溜先生が、堀田の小説や評伝を網羅的かつ丁寧に読み直し、問い直した本書は、堀田作品の本質に迫り、作家の全体像を再評価するものです。水溜先生に、執筆のエピソードや堀田善衛の魅力をお話しいたしましょう。

日時：2019年6月27日(木)

12:20～12:45 12:45以降5分程度Q&Aタイムあり

場所：北海道大学文学研究院「書香の森」
(玄関ホール横)

著者・おはなし：水溜 真由美 先生
(映像・現代文化論研究室 准教授)

今回のプラス1ピースは？



ジブリ作品のあちこちに
見え隠れする堀田善衛の
影響。その秘密に迫る!



お問い合わせ先：

北大 文学研究院 研究推進室

Tel: 011-706-4083

詳しい内容：

文学研究院ウェブサイト イベント情報

<https://www.let.hokudai.ac.jp/>

主催：北海道大学 大学院文学研究院